

荷物の収納場所を借りられる「トランクルーム」が進化している。ガレージ付きの2階建てや、音楽を流しアロマの香りを漂わせたものなど、高級感があるタイプも登場。趣味の品々を並べたり、クローゼット代わりにしたりと、使い方も多様化している。

(福森誠)

■市場は6年で1.8倍

トランクルームとは、業者がビル内に部屋を設けたり、屋外にコンテナを置いたりして収納場所を貸すサービス。大手のキューブズによると、2014年の国内市場規模は523億円、室数は31万3000室とともに08年の1・8倍に増え、27年に1000億円に拡大する可能性があるという。

背景には住宅事情がある。

アットホームが東京、神奈川、千葉、埼玉在住で都内に勤める30〜50歳の既婚男性会社員600人を対象に行った調査(11年)では、自宅に自室がある夫は約4割、妻は約2割にとどまった。自分のモノの収納スペースがない人も多いことが読み取れ、都市部を中心にトランクルームの出店

魅力満載

が増えている。

トランクルームは、狭義では倉庫業法に基づき業者に収納物の管理責任があるものを指す。だが、最近は利用者に管理責任がある「レンタル収納スペース」もトランクルームと呼び、ほとんどがこのタイプだ。契約形態はスペースの賃貸借契約で、収納物が被害を受けた場合の補償は原則ない。また、居住や宿泊などは各業者により禁止されている。ただ、収納物の出し入れの手続きは不要で、利用時間に制限のないところが多く、「使い勝手のよさが好評(レンタル収納スペース推進協議会)」という。

■形態は様々

コインロッカー型から、数十平方メートルの広さのままで様々な形態があり、料金は広さや立地条件により月に数千円

〜十数万円程度だ。

ライゼの「ライゼホビーメゾネットタイプ」(32〜72平方メートル、税込み月4万9680〜17万2800円)は2階建て。1階はガレージ、2階はフローリングでトイレや流し台もある。関東と関西に約110か所(計約550室)を展開し、今後5年間で全国250か所(同1100室)に増やす計画だ。

「自分の趣味が全て詰まっています。自分だけの世界を持っている」。1月から「相模原ライゼホビー」(相模原市)を利用している会社員の石橋和也さん(27)は、愛車の整備や電子工作、木工など多趣味。1階は車庫や作業場として利用し、2階では机や冷蔵庫も置き、工作をしたり、音楽を聴いたりとフル活用する。延べ床面積は39平方メートル、料金は税込みで月7万9000円。

■クローゼット代わり

イナバクリエイトの「INABA96プレミアムクローゼット」(0・36〜2・74平方メートル、税込み月2万900〜1万7690円)はカフェのような外観だ。廊下にはジャズなどを流し、アロマの香りを漂わせている。首都圏などで8か所展開し、17年に全国で300か所に増やす計画だ。

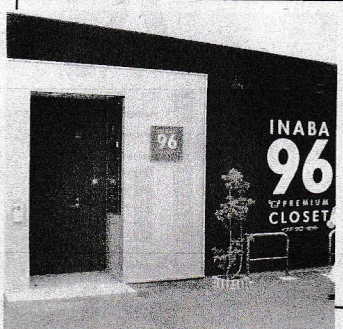
5月から「松戸陣ヶ前店」(千葉県松戸市)を利用する塾講師の林由美さん(54)は、昨年亡くなった義父の遺品を収納するため2・45平方メートルの部屋を借りた。今では自身の洋服や夫・利和さん(51)の趣味の道具も置いて「自宅のクローゼットのような感覚で使っている」という。

キューブズが都内2か所に設けている「女性専用フロア」(ロッカー型)約6・6平方メートル、税込み月2万4190〜5万2164円)は、廊下に姿見を設置し、掃除機や消臭剤も利用できる。フロアには各利用者が持つ保安カードがないと入れない仕組みになっており、「夜間でも安心して利用できる」との声が多い(同社)という。

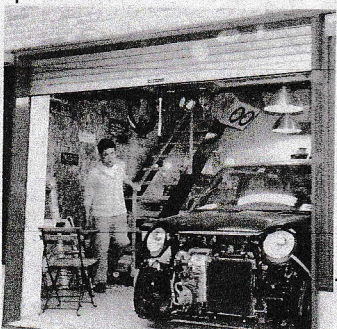
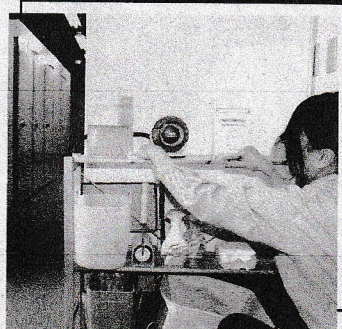
2階建て



カフェ風



女性専用



【写真左2枚】ライゼの2階建てトランクルーム(相模原市)＝菅野靖撮影

【写真中】カフェのような外観のイナバクリエイトのトランクルーム(千葉県松戸市)

【写真右】キューブズの「女性専用フロア」は掃除機や消臭剤も利用できる(東京都渋谷区)